



<ラムサール通信>

2015年3月27日発行 第171号

●フィールドワークショップのお知らせ●
春の三浦半島、ラムサール登録湿地候補(?)「小網代の森」へ
～湿地の恵み「食」シリーズ・マグロ丼を求めて～

4月11日(土)、ひさびさのフィールドワークショップを実施します。今回は、三浦半島の「小網代の森」を訪ね、休眠中(?)のアカテガニを観察、三崎のマグロ丼を味わい、ついでに温泉やマリンパーク見学も・・・という盛りだくさんのプログラムです。

小網代の森は、山から海までが1つの川によって結ばれ、森～渓谷～干潟～浜辺へと流域全体の自然が丸ごと残された、首都圏唯一ともいえる「完結した集水域生態系」です。30年ほど前、リゾート開発計画で消滅の危機に直面しましたが、貴重な自然を残そうと地元の市民や学識経験者による保全運動がはじまり、地権者の英断によって守られた湿地です。現在は全域の70haが国や神奈川県の実験地帯に指定され、その保全活動はNPO法人「小網代野外活動調整会議」に引き継がれ、多くの人が訪れる場所となっています。昨年夏に木道などの整備が終わり、一般向けに開放されるようになりました。

京浜急行(京急)線三崎駅までの往復切符と、三崎エリアのバス乗車券、マグロ丼、水族館や温泉の施設利用券がセットになった「京急みさきまぐろきっぷ」の利用が便利です。ガイド役は、会員の高橋一也さんと名執芳博さんです。「みさきまぐろきっぷ」の詳細は、

http://www.keikyu-ensen.com/otoku/otoku_maguro.jsp をどうぞ。

RCJ フィールドワークショップ・三浦半島「小網代の森」

- ・日時：2015年4月11日(土) 午前～昼過ぎ ※ 少雨決行です
- ・集合：第1集合場所：午前8時：京急「品川」駅 改札前
(JRからの連絡改札口でなく、外へ出てください)
第2集合場所：午前10時：京急「三崎口」駅 改札前
- ・解散：小網代の森を散策して、マグロ丼を楽しんだら、解散の予定です。
あとは三々五々、春の三浦半島を楽しんでください。
- ・持ち物：自分が必要だと思うもの。木道をちょっと歩くので、スニーカーなど歩きやすい靴で。
- ・費用：参加費はありません。実費は個人負担でお願いします。

●「ESD・KODOMO ラムサール<みやぎ大崎>」報告●
協働取組「KODOMO ラムサール」無事終了

2015年1月31日～2月1日、宮城県大崎市でESD・KODOMO ラムサール<みやぎ大崎>が、釧路湿原、谷津干潟、藤前干潟、琵琶湖、そして地元の蕪栗沼・周辺水田、化女沼の6湿地からの29人の子どもが参加して開催されました。

大崎市と地元 NGO の協力のもと、蕪栗沼、化女沼に注ぎ込む水源である上流部の雪原と、さまざまな生きものが暮らす田んぼ、そして7万羽を越すマガンが訪れる蕪栗沼、化女沼を見学・体験しました。

蕪栗沼、化女沼の宝を決める会議では、ファシリテーターの中村大輔先生と地元ファシリテーターの高橋のぞみさん（蕪栗ぬまっこクラブ）のダブルファシリテートのもと、活発な議論がおこなわれました。最終的には、「蕪栗沼・周辺水田と化女沼」、「沼を愛する人々」、「マガン」、「シナイモツゴ」、「雪」、「パタ崎さん」の6つの宝が選ばれ、メッセージは、「生き物と水田と全てがつながる大崎の輪をもっと広げよう」に決まりました。

KODOMO ラムサールの終了後には、「世界湿地の日」協賛のおとな向けシンポジウム「KODOMO と共につくる持続可能な地域社会」が、大崎市と日本国際湿地保全連合（WIJ）、RCJ の共催で開催され、地元 NGO、保護者、東北地方環境事務所など 90 人が参加しました。

詳細は、フェイスブックでどうぞ。 <https://www.facebook.com/RamusarCenterJapan>

なお、この KODOMO ラムサール〈みやぎ大崎〉は、環境省「平成 26 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」に採択された RCJ の「地域活性化に向けた『ESD・KODOMO ラムサール』推進事業」としての最終の KODOMO ラムサールとなりました。2002 年度に開始した「日本・中国・韓国 三国子ども湿地交流」から数えて足掛け 14 年 52 回目の湿地交流プログラムでした。これまでに参加した子どもは 8 か国 3700 人を超えます。RCJ では、日本を舞台にした KODOMO ラムサール活動の推進にはひとまずの区切りをつけ、この経験をアジアにつなげるため、新しいフェーズの KODOMO ラムサールプログラムを 2015 年度からスタートさせたいと考え、地球環境基金に助成申請中です。

長年のご支援、ご協力ありがとう、そして、またよろしく。



雪の中でマガンの飛び立ち観察



●「第 95 回ラムサールセンター〈ワイズユース〉ワークショップ」● 「アジア湿地シンポジウム／ラムサール条約アジア地域締約国会合」報告会

2014 年 12 月 27 日、大田区消費者生活センターで、カンボジアのシェムリアップで 2013 年 11 月に開催した「アジア湿地シンポジウム／ラムサール条約アジア地域締約国会合（AWS/RARM）」の報告会を、インテムコンサルティング、WIJ と共催で開催しました。WIJ 会長の名執芳博さんから AWS/RARM 全体報告のあと、参加した牛山克巳さん（宮島沼）、柏木実さん（日本ラムサールネットワーク）、島谷幸一さん（谷津干潟ユース）、辻田香織さん（環境省野生生物課、コメント参加）から報告があり、また AWS 活動を助成した KNCF に関係する経団連自然保護協議会の中村敬事務局長、カンボジアで養殖促進 JICA 事業を実施中のインテムコンサルティングの土居正典さんからもコメントをいただきました。AWS で採択した「シェムリアップメッセージ」を共有し、6 月にウルグアイで開催のラムサール条約 COP12 に向けての活動方針について議論をおこないました。

参加した 26 人のうち RCJ 会員は安藤元一、中村玲子、亀山保、武者孝幸、後藤安子、中村秀次、高橋一也、新井雄喜、苑原俊明、長倉恵美子、名執芳博、大原みさと、土居正典、田辺篤志、宮崎佑子さんでした。

●第 96 回ラムサールセンター〈ワイズユース〉ワークショップ報告●

第 96 回 RCJ〈ワイズユース〉ワークショップを 2 月 22 日、JICA 地球ひろばで開催しました。

3 月初旬に訪問予定のパリシュリ（インド・オリッサ州）のプロジェクト地視察に、KODOMO ラムサールの卒業生ら 5 人の大学生（松下美希、山本賢樹、吾郷諒華、大谷慧、佐藤湧馬）が参加することになり、そのための事前研修として計画されたもの。事務局長の中村玲子さんから、インドにおける NGO の重要性や、RCJ が関連するプロジェクトの解説があったあと、講師として岩崎慎平先生（福岡女子大学）が「チリカ湖とビタカニカ湿地」、川嶋宗継先生（滋賀大学）が「世界の水環境問題」、そして RCJ 会長の安藤元一先生（東京農大）が「インドの湖沼」についての講義。武者孝幸さんの、インド訪問の留意点と心構えについての情報提供など、中身の濃いものになりました。参加者は 21 人で、RCJ 会員は、上記講師のほか亀山保、高橋一也、佐々木優、長倉美恵子、中村秀次、赤瀬悠甫、白石拓也、田辺篤志、山本賢樹のみなさんでした。

●インドの住民参加型気候変動適応事業、視察報告● ～ラムサール登録湿地チリカ湖とビタカニカ湿地～

2015 年 3 月 3～11 日、インド・オディッサ州にあるチリカ湖とビタカニカ湿地を訪問し、プロジェクトの視察と現地 NGO、住民とのワークショップをおこないました。

主な目的は、今年から RCJ が現地 NGO 「パリシュリ」をカウンターパートにスタートする「インド国ベンガル湾沿岸村落の復興と防災のための『持続可能な生活林』再生事業」（トヨタ環境活動助成）の現地視察とキックオフミーティングの開催、また 2012 年から継続している「インド国ビタカニカ湿地の沿岸環境再生に向けた住民参加型植林と持続可能な開発のための環境教育の推進」（国土緑化推進機構緑の募金助成）の視察・指導、また同地域でパリシュリが進める地球環境基金（JFGE）や経団連自然保護基金（KNCF）などの助成プロジェクトの現地視察、またこれらのプロジェクトの相互リンクのための情報共有と調整です。同時に、KODOMO ラムサール卒業生が中心になって発足した NGO 「ユースラムサールジャパン」との協力事業として、参加したユースメンバーの国際協力研修を兼ねました。

パリシュリの Dash さんはじめスタッフの案内で、3 月 5～6 日はビタカニカ湿地周辺のマングローブ植林地や苗畑のある集落の訪問、ワニの保護区、現地住民とのワークショップ、3 月 8～9 日はチリカ湖周辺の環境教育センターのある学校訪問、現地住民とのワークショップ、ウミガメの産卵地の視察、トヨタ環境助成プログラムキックオフミーティングなどをおこないました。

メンバーは、RCJ の中村玲子事務局長、亀山保副会長、岩崎慎平福岡女子大学講師（RCJ 副会長）、川嶋宗継滋賀大学名誉教授、田辺篤志（スタッフ）、松下美希（東京農大 4 年）、山本賢樹（滋賀大 2 年）、吾郷諒華（立命館大 2 年）、大谷慧（東大 1 年）、佐藤湧馬（日大 1 年）の 10 人でした。また隣国バングラデシュの NGO バングラデシュ・ポーシュから Sanowar Hossain さんと Asaduzzaman さん、ネパール湿地協会の Bishnu Bhandari さんも参加しました。以下に参加メンバーの感想を掲載します。なお、RCJ の HP には、インド視察の亀山保さんのレポートも載っています。

インド訪問の感想 ————— 松下美希（東京農業大学 4 年）

今回、現地の学校や集落を訪問すると、現地の方たちは、私たちがダンスや伝統的な発声方法で出迎えてくれ、私たちが歓迎されていること、信頼されていることが伝わってきました。遠い日本とインドで行っている事業ですが、プロジェクトの主体となる住民、とりまとめる現地 NGO、遠い地から支援する NGO、全者のつながりの強さにとても驚きました。

全体を振り返ると、ワークショップで現地の子どもたちと一緒にダンスを踊ったり、集落を歩いて人々の日常を垣間見たり、学校を訪れて子どもたちが学んでいる教室に入ったり、自分の日常とかけ離れた人たちの生活を実感しました。また、子どもから大人まで人なつこいインド人、毎食必ず 1 種は出る激辛カレー、

車道をゆうゆうと歩く牛、驚くことばかりで面白かったです。

インド訪問の感想 ————— 佐藤湧馬（日本大学1年）

私にとって今回のインドの旅は一つのカルチャーショックでした。チリカ湖における数々の問題は、生活の上でより重大なこと（食料の確保、住居、生活必需品）を優先することによって、その他のこと（例えば衛生状態であったり、災害対策であったり、時には教育であったり）が犠牲にされて起こっているように見えます。つまりは貧困なのでしょう。貧困は深刻化すれば、飢餓や疫病によって命をも奪いますが、それは最後の瞬間の話であって、その過程では価値の低いものから順番に、より価値の高い物のために諦めざるをえなくなるようです。もしくは、最初からより生命に直結する価値の高い物を確保するだけで、そのほかのものは手に入らなくなるのでしょうか。これは極めて高いリスクを抱えて生きていることに他なりません。もし何か歯車がくるって（例えば不作や不漁のような）、今持っているものを手放す必要があるとき、日々を多少のゆとりをもって生きている人々はなにを手放すことが出来るのでしょうか。

最前線の問題は、いまだどこにも答えのない問いでしょう。今回の旅でほんの少しの前進を感じながらも、私の心は晴れません。現実の問題とはそういうものなのだと、私は初めて知りました。

●「ユースラムサールジャパン」、活動開始●

「ユースラムサールジャパン」は KODOMO ラムサールの「卒業生」らが中心となり、日本や世界各地の湿地について学び、保全と賢明な利用の方法を考え、多くのユースや子どもたちに普及啓発することを目的とした NGO です。数年前から構想を練り、昨年度から具体的な活動を開始しました。ユースラムサール交流会の定期的開催、フィールド学習もおこなっていくとのこと。RCJ もできるかぎりの協力をしていきます。

今年度の最初の活動は、5月4～6日に名古屋市藤前干潟で、「第1回ユースラムサール交流会 in 藤前」を実施する計画です。ただいま活動に参加してくれる会員を募集中。そのお知らせを同封します。

RCJ 会員・事務局の近況・現況・ホットニュース

●RCJ 国際会員の **Gea-Jae Goo 先生**（韓国・釜山大学教授）のラムサールアワード（ウルグアイ COP12）の受賞が決定しました。Joo 先生は、韓国で湿地と文化に関する研究・活動を推進し、RCJ とは 1995 年から一緒に活動をしてきました。おめでとうございます。

●昨年 10 月から、青年海外協力隊員としてペルーのラムサール登録湿地パラカスで、国家自然保護区管理事務局のボランティア（環境教育）をしている **尾崎友紀さん** から近況報告が届きました。アシカの生息調査、保護されたフラミンゴの世話、現地の学生ボランティアの受け入れ、世界湿地の日のイベントの準備など、充実した日々を過ごしている様子。写真は、世界湿地の日に、パラカスの海岸線を行進する 300 人の市民です。



●昨年 3 月長崎大学水産学部を卒業し、1 年間、RCJ 事務局スタッフとして活躍した **田辺篤志さん** が、4 月から熊本大学大学院自然科学専攻科博士課程前期に社会人入学します。九州・沖縄地方は、北海道に次いでラムサール登録湿地がある湿地ホットスポット。いっそうの活躍を期待します。

●RCJ 会長の **安藤元一先生**（東京農大）、副会長の **磯崎博司先生**（上智大）がそろって、3 月末で忙しい大学教授生活にピリオドを打ちます。少し時間のできたお二人を招いて、じっくり専門領域のお話を聞く退官記念ワークショップを計画中。詳しくは改めてお知らせします。ご期待ください。